

CASE 1

新社屋完成で新たな展開を

[株式会社 花善 | <http://www.hanazen.co.jp/>]

〒017-0044 秋田県大館市御成町 1-10-2 / TEL.0186-43-0870・FAX. 0186-43-0888
E-mail:info@hanazen.co.jp

「新社屋を舞台に次の目標へ向かいたい」と八木橋秀一社長



大館駅前に新社屋誕生。 鶏めし弁当を、故郷の味へ

創業118年の「花善」の新社屋が完成

花善の鶏めし弁当は、秋田を代表する名物駅弁だ。明治32年、大館駅開業と同時に始まった花善の長い歴史の中で、現在の鶏めし弁当が誕生したのは昭和22年。それ以降、看板商品として大切に育ててきた。花善にとって、戦後の紆余曲折を二人三脚で歩み続けてきた大切なアイコンだ。

今年7月、花善は大館駅前に鉄骨2階建て・延べ床面積748㎡の新社屋をグランドオープンさせた。1階には製造工場、お食事処、弁当販売窓口。2階には花善の歴史を伝えるギャラリーを配置し、駅弁の包み紙の変遷や旧大館駅の写真を展示するほか、工場の一部が吹き抜けになっており、ガラス越しに製造工程を見学できる。

リニューアルしたお食事処のコンセプトは大館と鶏。「鶏めしを中心に大館の食材を使った料理を提供したい」と八木橋社長。親子丼、鶏めしチャーハンなどのメニューも揃え、観光客にも地元客にも愛される店づくりを目指す。

工場では1日最大3500食だった製造個数を5000食まで拡充し、より安全・安心な弁当の提供が可能になった。

愛され駅弁「鶏めし」を大館の味に

今回の新社屋誕生は、「鶏めし」のさらなる販路拡大を目的としている。200席以上あった席数を50席弱にスリム化し、より丁寧な接客を心がける。当センターのよろず支援拠点の助言を受けながら、衛生管理体制を強化し、鶏めし弁当の消費期限を添加物に頼らない形で延ばす。消費期限の延長は販路拡大に直結する要因だ。

花善の究極の目標は「鶏めしを大館の定番のふるさとの味にすること」。そのために、大館市内の小・中学校の給食に鶏めしを提供している。「鶏めし=故郷の味にしたい。そして、より地元で愛される存在に育てたい」と八木橋社長。JR東日本「駅弁味の陣」で平成27年から2年連続で駅弁大将軍(最優秀)に輝く快挙を成し遂げた花善の新たな挑戦が始まった。



2階ギャラリーには、かつて大館駅で活躍した立ち売りの備品も展示され、記念撮影も出来る。SNSの流行に合わせた遊び心が受けている。
【営業時間】
弁当販売処 / 6:30 ~ 19:00
お食事処 / 10:00 ~ 14:30
ギャラリー / 10:00 ~ 16:30
※いずれも無休

事業概要 秋田県よろず支援拠点

秋田県内の中小企業・小規模事業者のための経営相談所として、売上拡大、経営改善など経営上のあらゆるお悩みの相談に対応します。コーディネーターを中心とする専門スタッフが適切な解決方法を提案します。

お問い合わせ あきた企業活性化センター/秋田県よろず支援拠点 (018-860-5605)まで。

CASE 2

メイドイン秋田を世界へ

[有限会社 勇和工業 | <http://inagi.yuuwa-shaft.jp>]

本社営業所 〒206-0812 東京都稲城市矢野口 1212-1 2F TEL.042-377-3356 FAX.042-378-3888
秋田工場 〒019-2331 秋田県大館市大巻字宅地 36-1 TEL.0187-87-5622 FAX.0187-77-2605
E-mail: inagi@yuuwa-shaft.jp

「面白くなくてはものづくりではない」と鈴木勇太社長



製品に自信があるから 価格ではなく、品質で勝負する

小さな工場で作られる、高度な精密部品

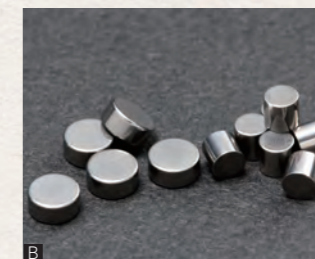
大館市大巻(旧西仙北町)に工場を構える「勇和工業」。工場で作られているのは、産業ロボットや医療機器などの精密機械に使われる、小さな小さな部品だ。髪の毛ほどの細さのマイクロシャフト、直径数ミリのクロスローラーなど、小さな製品に特化した製造技術を誇る。主力のクロスローラーは、工場の生産ラインで使われる産業ロボットの駆動部分に使われ、ナノレベルの厳格な公差(誤差の許容範囲)が求められる。勇和工業が実現する高品質は、海外からも認められ、現在では、取引先の半分を香港、台湾、韓国など海外のメーカーが占める。

リーマンショックからの再起をかけて

もともと、東京都稲城市に工場を構えていた同社が秋田に工場を移転したのは2009年のことだった。製造業へのリーマンショックの影響は大きく、業績が急激に悪化。東京での工場経営が立ち行かなくなり、当時の鈴木敬三社長(現・会長)は夫人の出身地である秋田への移転を決意し

た。オーストラリア在住だった敬三氏の息子 勇太氏も、経営を手伝うために帰国。スタッフを現地採用し、新たな製品での再起を目指した。しかし、当時の経営状況では、設備投資に協力してくれる金融機関は皆無。そんな中、当センターに提出した計画書が評価され、設備貸与制度を利用して測定器を導入。これにより、より厳しい公差を要求する顧客との取引が可能となり、勇太氏が単身で海外メーカーへ営業、販路を拡大してきた。

今年4月、社長に就任した勇太氏。「スタッフが心を込めて作った製品だから、価格で勝負するのではなく、品質を理解してもらえるお客さまに買ってほしい。そして、Made in Akitaの製品を発信することで、いつか秋田に恩返しをしたい」と熱く語った。



A 製造中のクロスローラー
B 完成品のクロスローラー
C “No Fun No Manufacture” 制服に書かれた言葉は、勇太社長の座右の銘。

事業概要 設備貸与制度

県内小規模企業者・中小企業者が導入を希望される機械設備を当センターが購入し、割賦販売またはリースする制度です。

お問い合わせ あきた企業活性化センター/設備・研究推進課 (018-860-5702)まで。